

大连理工大学2010年度教学改革基金课题项目

高 / 级 / 日 / 语 / 系 / 列 / 教 / 程

高级 日语

第 3 册

大连理工大学外国语学院日语系 组织编写

主 审：杜凤刚 李筱平
总主编：孟庆荣
主 编：穆 红 王 冲
副主编：王玉明 鲁 畅

大连理工大学2010年度教学改革基金课题项目

高 / 级 / 日 / 语 / 系 / 列 / 教 / 程

高级 日语

第 3 册

大连理工大学外国语学院日语系 组织编写

主 审: 杜凤刚 李筱平
总主编: 孟庆荣
主 编: 穆 红 王 冲
副主编: 王玉明 鲁 畅
编 者: 孟庆荣 穆 红 王 冲 王玉明
鲁 畅 赵丽红 闻 艺 李 捷
唐晓煜 孔 丹 李光赫
校 对: 武田美树 山口

大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

高级日语. 第3册 / 孟庆荣, 穆红, 王冲主编. —
大连: 大连理工大学出版社, 2012. 8
高级日语系列教程
ISBN 978-7-5611-7103-5

I. ①高… II. ①孟… ②穆… ③王… III. ①日语—
高等学校—教材 IV. ①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2012)第 158158 号

大连理工大学出版社出版

地址: 大连市软件园路 80 号 邮政编码: 116023

发行: 0411-84708842 传真: 0411-84701466 邮购: 0411-84703636

E-mail: dutp@dutp.cn URL: <http://www.dutp.cn>

大连理工印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸: 185mm×260mm 印张: 15.5 字数: 354 千字
2012 年 8 月第 1 版 2012 年 8 月第 1 次印刷

责任编辑: 宋锦绣 责任校对: 苏阳 李昕宇 杨书
封面设计: 夏文娟

ISBN 978-7-5611-7103-5

定 价: 30.00 元

この本をお使いになる方へ

このテキストは、2009年度大連理工大学出版社から出された、大連理工大学日本語学部編集の『新総合日本語』シリーズ教材の上級編になります。基本的に初級を終えた、或いは中級段階の学習者を対象と致します。大学生の場合、大学三年生を対象とするものです。社会人の場合、日本語中級程度、或いは日本語能力試験N2レベル相当の学習者をも対象に入れております。基礎段階で終えられた体系的学習を深めながら、更に総合的な日本語の運用能力を高めることを目指すものです。

初級或いは中級段階で日本語表現の基礎を中心にしてきたのに対して、上級レベルでは言語の運用能力、コミュニケーション能力を高めることを目標に設定されており、つまりこれまで習ってきた日本語を使って何かを習得したり、自己表現したりすることが目標となります。例えば、中級までは文章はどんな内容のものだったのか、語彙や文法表現はどんな意味を表しているのかなどだったものを、上級では、作者は何を言いたかったのか、作者の主張についてあなたはどのように考えているのか、またどうすべきのかなどを、皆と議論しながら言語の運用能力を伸ばすものになります。勿論、各課には語彙や文法或いは表現の説明も細かにあり、初級後半レベルの学習者も十分お使いいただけるように配慮致しました。

日本語ばかりではなく、あらゆる言語の取得には実践が付きもので、よって本書ではグループ活動という実践項目を、一人でもペアやグループでも完結可能な形で多目に盛り込みました。ぜひ本書を使って、活動にチャレンジしていただきたいものです。

多くの学習者にとってより日本語能力を上達させられる手助けになれば幸いです。

このテキストを使って指導される方へ

本書は以下の理念に基づき作成致しました。

1. 本書の理念

①実践的言語学習をすること

★言語の習得は実践が伴わなければ、運用力が身に付けられるものではないと思われます。

②思考を深めること

★知識を鵜呑みにするのではなく、作者の主張を自分なりに理解し、価値判断することも必要です。

③自己表現を大事にすること

★自己主張をする、またできるように努力することが大事です。

④自立学習を養いながら、協働学習を学ぶこと

★自立学習は勿論大事ですが、他者との協力によって勉学することも大事です。

⑤問題を発見し、解決する能力を身に付けること

★上級段階の日本語学習では、勉強中に疑問を持つこともあると思います。そこで、ただ疑問を持つばかりではなく、解決能力、つまり課題を見つけ、更に完成させる能力も身に付けてほしいものです。

⑥自分に目覚めること

★最後に、本書を通して自己発見の道が開けたら、我々にとってこの上ない喜びです。

2. 本書の主旨と目標

本書は言語の運用能力をベースに、学習者の総合的なコミュニケーション能力を養うことを目指すものです。具体的に次の3点に凝縮しました。

①コミュニケーション能力の向上

★言語習得の目的とも言える、異文化他者とのコミュニケーション能力を向上させることにあります。

②自己アピール能力の向上

★自分の思考力を鍛え、更に表現できる能力を鍛えることにあります。

③協働学習能力の向上

★他者との協力によって習得する力、つまり協働学習を進めることにあります。

3. 本書の構成

各課は次のような構成になっております。

①グループ活動Ⅰ

★ウォーミングアップのための課題です。本番に入る前の前作業にあたるもので、連想など学習ストラテジーの多用により、より本文内容の理解を深めるために、また連想することによって関連知識の運用や語彙力の増加を目指すものです。

②本文

★学習する文章になります。

③ 作家紹介

★学習者がよりよく作品を理解できるように、作家に関する基本情報を提供致しました。この部分は学習者たちの自主学習をねらい、更に詳細な情報提供を課題として完成してもらうこともよいでしょう。

④語彙と文法と表現

★文章理解を促すための関連知識です。語彙の意味説明や、文法の意味と使い方と例文、慣用表現の意味解説などからなります。

⑤内容理解のポイント

★文章の内容をより良く理解させるために、また考えさせる力を鍛えるために、設問を多目に設置いたしました。設問の内容は文脈における語彙内容の説明から、段落や作者の意図など、様々な角度から考える力を付ける課題からなります。この段階での教室活動への展開もお勧めします。つまり設問の内容を一人でも、ペアやグループでも相談しながら解決させていくことをお勧めします。

⑥グループ活動Ⅱ

★本文の学習を終えた段階で、本文内容と関連して、深めるための課題を設置致しました。この部分でも協働学習をお勧めします。

⑦広く読もう

★更に能力アップする段階のもので、特に学習意欲が旺盛な学習者のために、文章の関連情報を少し提供致しました。

⑧グループ活動Ⅲ

★関連文章を読んだ段階になり、更に本文内容を深めるための思考力、問題意識の提起、また、問題を完成させるための課題になります。授業内外を問わず、協働学習をお勧めします。

⑨発展課題(協働)

★基本的に授業外における課題になります。授業時間が限られているので、授業外でも議論や表現の場を提供するために設置いたしました。必要に応じて行えばよろしいでしょう。

⑩勉強の窓

★テキストの補助とも言えるこの部分は、テキストに設置された各種教室活動をよりよく展開するために、それぞれの活動はどんなものなのか、どんなルールがあるのか、またどんな段取りで実行するのかを、実例を持って説明しています。是非学習者に参考にしてもらいたい部分です。

⑪その他

★付録には単語、慣用表現、文法・表現が付いています。

4. 本書を使った指導に関する基本情報

①対象者・レベル

★中級或いは中級以上の学生、社会人

②所要時間

★1課ごとに完結されており、内容の長さや深さによって時間の配分は教師ご自身で設定される事をお勧めしますが、基本的に1課ごとの所要時間は約90分～180分が理想的だと想定されています。

③クラスのサイズ

★クラスのサイズにより、授業の進め方も違ってきます。小人数クラス2～6人から、30人前後のクラスまでさまざまな対応が可能なグループ学習をお勧めします。また、教師ご自身によって臨機応変な授業展開をなさるのもよいでしょう。

④テキスト・活動のタイプ

★多様な教室活動をお勧めします。個人における発表や課題の完成、或いはペアやグループワークでの協働学習もお勧めします。また、諸先生方の更なる多彩な教室活動の展開を期待してやまないものです。

大連理工大学日本語学部編集者一同

2012年7月

本书使用说明（一）

2009年大连理工大学日语系编写的《新综合日本语》（基础篇）得以在大连理工大学出版社出版，而这套《高级日语》（高级篇）是这一系列教材的高级篇。学习对象为较好地完成了初级阶段日语学习的学习者，或者中级阶段以上的日语学习者。如果是面向日语专业的学生，则为大学三年级使用的精读课的课本；如果是面向社会自学者，我们建议有一定的日语基础，或基本完成了初级阶段的日语学习，即将进入或者已经进入中级乃至高级阶段的日语学习者自学使用。对于自学能力较强的自学者来说，将是拔高、提升自己的极好契机。本书的目标是：继续深入基础阶段的较系统的学习，同时以提高日语的应用能力为目标，努力提升个人的综合能力。

初级阶段乃至中级阶段的日语学习主要以打好日语语言基础功底为主，而高级阶段的日语学习主要以提高语言的应用能力、跨文化交际能力的掌握为主。即将至今为止掌握的语言应用起来，通过学习过的语言来掌握知识，用来表达个人的思想感情等。基础阶段的学习重点以课文里的语言表达理解，语法内容的理解乃至整体内容的理解为主，而高级阶段的学习以注重作者的意图，对作者的主张等个人的理解为主，通过参与课堂活动等用语言表达自己的主张、见解。要提到的是，我们认为发表个人意见时观点的对错不重要，重要的是会用日语表达自己的见解，以提高语言的应用能力。

每课后我们都附有单词、语法及固定表现的详细解释与说明，如果基础打得好的话，初级后期的学习者也可循序渐进地跟进本书。

另外一定切记，语言是一门实践性很强的学科，为此本书中设定了许多与课文相关的话题、问题和课题，这些课堂活动只要您认为可行，可以以一个人、两个人或者小组等任何形式展开，希望广大学习者一定抱着坚定的信念，挑战各项活动的开展，为提高语言的应用能力而努力。

我们期望此书能成为您的有力帮手，让更多的日语学习者通过此书的学习而使语言应用能力得以提高，为此我们也将不胜欣慰。

本书使用说明（二）

1. 本书的编写理念

①以实践性学习为目的

★我们认为语言的应用能力只有通过实践才能真正提高。

②主张思考性学习

★任何知识的学习都不要死记硬背，不仅要理解作者的主张，更要学会思考，形成自己的观点并加以表达。

③勇于表达自我

★语言是工具，既然是工具就要学会去运用它，运用它来表达自己的思想感情，这是非常重要的。

④培养自主学习能力的同时，学会协作学习。

★自主学习当然很重要，与他人协作学习的能力也是社会人应该具备的基本条件之一。

⑤培养学习者发现问题、解决问题的能力

★高级日语学习阶段，在学习发出疑问非常重要，既要学会发现问题，同时也要学会解决问题。

⑥通过学习发现自我

★最后，希望广大学习者通过本教材的学习，最终能够对自我有所发现，并能持之以恒地坚持下去，我们将感到万分欣慰。

2. 本书编写的宗旨及目标

本书的编写宗旨是：以提高学习者的语言应用能力为基本目标，同时综合培养日语学习者的语言交际能力。具体可归纳为以下3点：

①培养日语学习者的语言交际能力

★主要培养日语学习者的跨文化理解能力和跨文化交际能力

②培养日语学习者的自我表达能力

★培养日语学习者的思考能力以及自我表达能力

③培养日语学习者的协作学习能力

★如果自主学习是每个人应具备的基本学习能力的话，那么参与小组及团队锻炼与人协作的能力同样也是作为社会人的基本条件，也是我们培养的目标之一。

3. 本教材的基本构成

本教材的内容基本涵盖了高年级日语专业教学大纲所要求的知识范围。内容主要涉及到文学、语言、文化、经典话题、科技等方面，文体涉及到随笔、评论、访谈、小说及诗歌等。

每课内容主要由以下几个方面组成：

①课前热身活动 I

★“课前热身活动”主要是通过回想、讨论、讲解等唤起学生的相关背景知识，从而增强学习者对词汇的印象及回想以往所学知识，加深对将进行的课文内容的理解。

②本文

★为学习的主课文内容部分。

③作者介绍

★为了方便学习者加深对课文内容的了解，提供了作者的基本信息。建议在具体的课堂内容进行中发挥学习者的积极性，由学习者完成对作者的更加详细的、多方位的信息调查。

④词汇与表现

★为了便于学习者自学，特别是自学者更好地理解课文内容，我们对单词、语法、惯用语句表现等做了详细地解释，语法部分有参考例句等。在这部分里，主要让学生掌握所需的基本日语语言知识，增强对课文内容的分析理解能力。

⑤围绕课文内容的提问

★为了深入理解课文内容，围绕课文中的知识点、语言点及作者的观点等提出问题或课题，培养学习者思考问题并解决问题的能力，问题可以独自或几人共同讨论完成，并在课题完成过程中逐渐意识到协作学习的重要性及其能力培养的重要性。

⑥课堂活动 II

★就课文内容进行深入展开的课堂活动与课前热身活动中提及到的部分相关知识或内容起到相辅相成的作用，就课文内容学习中发现的问题进行探讨、分析、发表等，加深对课文内容的深入理解。

⑦相关阅读

★主要针对课文内容进行展开，扩大相关知识面，为学习者进一步提高能力提供空间。

⑧课堂活动 III

★这部分活动内容主要对课堂内容进行深入的思考和讨论。主要目的是加深对课文内容的深入理解。在深入理解的同时，唤起学习者对此问题的思考，发现问题并通过活动来解决问题，并且在完成过程中达到协作学习的目的。

⑨扩展活动

★主要目的是给学习者提供课余互动的机会。既可以对本课内容进行更深入的探讨，又可以培养学习者之间的协作能力，以提高学习者的协作学习能力为主要目标。

⑩学习之窗

★这部分将对课堂学习起到辅助性的作用。为了将各课设置的课堂活动更有效地展开，这部分主要介绍各种活动的具体内容，比如说：是什么样的活动，都有些什么形式，有什么规定，按什么顺序进行等，每部分都有实例进行实际说明。建议学习者一定要参考进行。

⑪其他

★课后附有附录，内容包括词汇、惯用表达和语法·表现。

4. 使用本书的学习者条件（供参考）

①学习对象及日语水平

★日语中级或中级以上水平的学生或自学者。

②学习所需时间

★每一课都是独立的课文内容，建议可根据课文的长短、内容深度等教师自行安排、掌握进度。我们基本设想每课所需上课时间为90~180分钟（可根据实际情况自行规定进度时间）。

③班级人数

★根据班级人数的不同，课堂形式可以自行决定。小班人数可以在2~6人等，大班人数可以在30人左右。教师可根据班级人数多少决定课堂活动的开展，人数少可单独提问或两个人等进行，人数多可组成若干个小组同时进行，也期望各位教师同仁有更好的、丰富多彩的课堂活动展示给学生们。

④教材及活动的形式

★我们期望是活跃的教室气氛，丰富多彩的教室活动。可以有个人发表及课题的完成，也可以两个人一组或多人一组共同完成课题。学习者之间的互动互助学习也是主要培养目标之一。同时我们期待各位教师同仁能将更好的课堂活动形式运用到课堂上，并给我们提出宝贵的意见。非常感谢您对我们的支持。

大连理工大学日语系《高级日语》编写组

2012年7月

出版说明

最近几年，东莞广播电视台领导班子带领全台员工，解放思想，群策群力，实现了跨越式发展。2012年8月，广东省电视艺术家协会、广东文化传媒发展研究会组织省内外的专家学者，在东莞广播电视台作了深入的调研，系统地总结了东莞广播电视台的成功经验，分析了东莞广播电视台面临的新挑战，在此基础上研究了我国城市电视媒体下一步的发展目标、发展思路和发展模式，并提出了一些展望，以期为我国城市电视媒体当前和未来的持续发展提供理论支持。2012年9月1日，“城市电视创新与发展——东莞论坛”顺利举行。本书的内容就是专家、学者在东莞广播电视台调研所取得的部分成果以及在该论坛上所作的发言整理稿。

目 录

この本をお使いになる方へ	3
このテキストを使って指導される方へ	4
本书使用说明（一）	7
本书使用说明（二）	8
目 录	11
第1課 「私」という「自分」	1
第2課 おカネで買えぬもの	14
第3課 情けは人の	24
第4課 孤独を伴とせよ	52
第5課 自己基準と他者基準	65
第6課 雪の夜の話	89
勉強の窓（一）電話のかけ方・受け方	107
第7課 日本人の感性	114
第8課 メディアに軽重はあるか	133
第9課 シーソー	153
第10課 石の声が聞こえる	166
第11課 相棒	178
第12課 食と想像力	195
勉強の窓（二）面接	208

付録

1. 単語 218

2. 慣用表現 232

3. 文法・表現 233

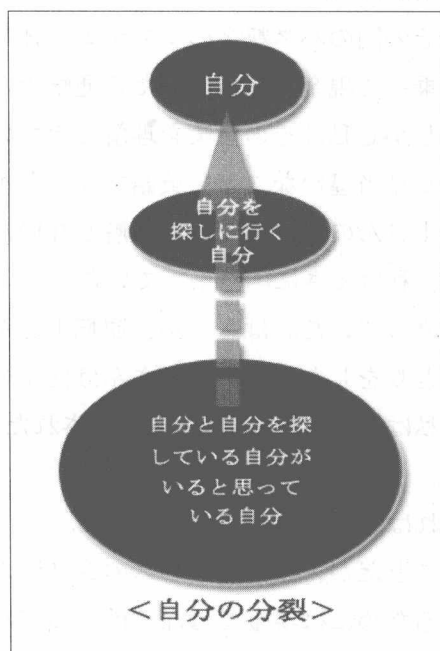


第1課 「私」という「自分」

グループ活動Ⅰ

(ちょっと話してみよう)

1. 「私」という言葉と「自分」という言葉は、どう違うか考えてみよう。
2. 「私」とは何か、「自分らしい」とはどういうことか、話し合ってみよう。



自分を知るための方法の1つとして自分史を書くことがあります。

本 文

鷺沢 萌

「自分らしく生きる」、というのは、どういうことなのだろう。

正直に言えば、私は自分自身が「自分らしく」生きているのかどうか、わからない。今日の前にある「やらなければならない(と思う)こと」が「自分らしいこと」なのか「そうでないこと」なのか、わからないからだ。もっと正直に言えば、たった今日の前に「やらなければならない(と思う)こと」が存在している以上、それが自分らしいことなのかそうでないのか、というようなことを考えている余裕は、あまりない。

ただ私は、ここに「自分」という人間が存在する以上、いつでも「自分以外の他者」、つまりだれかのためになる何かをやりたい、だれかの役に立つことをしたい、だれかにとって意味のある存在でいたい、というふうに考えている。

だれかにとって意味のある存在、という言葉、どうか重たく解釈しないでほしい。たとえば私にはこんな思い出がある。

とある外国でのことだ。その国のバス料金のシステムを知らないままバスに乗ってしまったことがある。バスに乗って現金を差し出したら運転士さんに現地の言葉で何か言われ、乗車を拒否された。しかし私はその言葉を理解できないので「これでは足りないのですか？」などという全く見当違いなことを英語で述べながら硬貨を差し出す以外に手立てがなく、しかし運転士さんのほうは英語を理解しないためにある種の押し問答のような状態になってしまい、私はまさに困り果てていた。

そのとき、乗車口近くに立っていたおばさんが、運転士さんに何事か早口で話しかけた。運転士さんと短いやりとりをした後で、おばさんは何か紙片のようなものを運転士さんに手渡した。そうして私は、バスに乗ることを許可された。目の前で、奇跡が起こったかのような感覚があった。

もちろん実質的には、それは奇跡でも何でもなかった。

これは後になってわかることだが、その国のバスのシステムは私が訪れる数か月前に改正されており、バスに乗るためには現金ではなく前もってバス・クーポンを購入しておかなければならないようになっていたのだ。だからそのとき起こったのは、親切な現地の中年女性が言葉もわからぬかわいそうな外国人のために「もう一人分」のクーポンを払ってくれた、という出来事にすぎない。



クーポンというものの存在すら知らなかった私だが、とにかくバスに乗れたのはそのおばさんのおかげだ、ということだけはそのときに理解できた。だから私は彼女に対して英語で感謝を述べた。彼女はそれに対して、笑いながらやはり私にはわからない現地の言葉で何か言った。私は「ありがとう」の一言さえ現地の言葉では言えないままその国を訪れた自分を激しく恥じた。

「人には親切にしてください」、「困っている人がいたら助けてあげなさい」というようなキレイゴトを言いたいのではない（もちろんそれも大切なことだが）。たとえば感謝を伝えた私に向かっておばさんが言った言葉も、単なる「どういたしまして」ではなく、何か皮肉めいたことだったかもしれない。

けれど実質的にはとにかく、感覚的には私は奇跡をまのあたりにした経験をしたし、英語圏でない外国へ行くときには、せめて「ありがとう」と「ごめんなさい」ぐらいの土地の言葉を覚えてから行くべきである、という教訓を学んだ。そのおばさんのおかげで。

きっと私は彼女の顔を忘れないだろうと思うし、あの異国のバス停での光景をも忘れないだろうと思う。そうしてもしも、私自身がいつかあの日の自分のようなだれかと会ったなら、たとえば切符の買い方がわからない様子の外国人をどこかの駅で見かけたなら、助けてあげたいな、というふうに単純に考えもする。

つまりその時点で、名前も知らないあのおばさんは、私という「だれか」にとって、すでに十分すぎるほど「意味のある存在」なのである。

世界は、「自分」と「自分以外の他者」で成り立っている。言い換えればそれは、いくら強烈で確実な「自分」を有していたところで、それを認識してくれる「自分以外の他者」がいなければ世界は成立し得ない、ということでもある。

たとえば「自分は強い」ということを自分の中でいくら信じていたところで、そういう「強い私」を認識してくれる「自分以外の他者」がいなければ「強い私」は架空のものになる。「強い私」はどこにもいなくなってしまうのだ。

もっと言えば、「自分以外の他者」の存在を無視するとき、言葉、あるいは感覚ですらその意味は無になる。「あのりんごは赤い」という事実をいくら自分が認識していたとしても、その事実を伝達する対象となる他者がいなければ、赤いりんご自体がどこにも存在しないものになるのだ。